

高齢者看護学実習Ⅰ（慢性期看護実習）

単位数：6単位（時間数：270時間）

開講年次及び学期：1年次後期

○原 祥子：地域・老年看護学講座 教授
加藤 真紀：地域・老年看護学講座 准教授

1. 科目の教育方針

慢性期治療を受ける高齢患者とその家族に対する、医療チームの一員としての看護実践を通して、直接的な看護実践の能力を向上させるとともに、相談、ケア調整、倫理調整、スタッフ教育の能力を開発する。また、実習を通して、高齢者看護ケアを変革・発展させていくことのできる老人看護専門看護師としての視点を養う。

2. 教育目標

- 1) 既習の理論やモデルを適用し、慢性期にあり複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族に対して、適切なアセスメントに基づく判断、問題解決へ向けた看護援助の実践、援助結果の適切な評価ができる。
- 2) 医療チームの一員として展開された看護実践、実習指導者の指導のもとに（実習指導者とともに）行われた相談、調整等について、その意図や方略、評価方法を理解する。
- 3) 高齢者とその家族、専門職者間で生じた倫理的課題に対する調整方法を理解する。
- 4) スタッフへの教育的働きかけや教育的環境づくり等、継続教育における老人看護専門看護師の役割を理解する。

3. 実習施設・時期および内容

【実習施設】

松江市立病院または松江赤十字病院

【実習時期】

1年次後期科目「老年慢性期ケア演習」の履修終了後、2～3月の6週間

【実習内容】

実習指導者の指導のもとに、高齢者とその家族に対する看護実践を行い、老人看護専門看護師が果たす相談・ケア調整・倫理調整・スタッフ教育の役割について、実習施設における実践を通して学ぶ。

4. 評価

実習内容、実践報告書、レポートのほか、学生の自己評価および実習指導者の意見を踏まえて、単位認定者（原 祥子）が総合的に判断し評価する。

5. 備考

詳細については、別途、高齢者看護学実習要項を提示する。